

# 平成13年度第3回常務理事会議事録

日 時：平成13年7月23日（月） 15:00 - 17:50

場 所：ルーテル市ヶ谷センター「第1会議室」

出席者：

会 長：荒木 勤

副会長：中野 仁雄、野澤 志朗

理 事：落合 和徳、佐藤 章、佐藤 郁夫、武谷 雄二、田中 憲一、西島 正博、  
藤井 信吾、村田 雄二

監 事：青野 敏博、佐藤 和雄、藤本征一郎

幹事長：塚崎 克己

幹 事：泉 章夫、岡本 愛光、古山 将康、斎藤 克、佐川 典正、澤 倫太郎、  
清水 幸子、高桑 好一、阪埜 浩司、平川 俊夫、藤森 敬也、村上 節、  
矢野 哲、吉田 幸洋

総会副議長：小柴 壽彌、松岡幸一郎

事務局：飯島正一郎、荒木 信一

## [ 配付資料 ]

業務担当常務理事報告予定内容

1：第2回常務理事会議事録（案）

庶務1：定款の変更条項および事由書、定款新旧対比表

庶務2：本会ホームページによる議事録（常務理事会、理事会）の公開と議事録記載の充実を図ることについて

社保1：妊娠・分娩の給付のあり方に関して

社保2：エストラジオール貼付剤（CH-003）の「閉経後骨量減少の改善」効能取得に関する要望書

社保3：超音波パルスドップラー法の社会保険の適応症について

社保：日本医師会「医療構造改革構想」

倫理1：後期精子細胞の臨床応用に関する西修会員よりの質問状とその回答案

倫理2：本会会告「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解」と本会会告「ヒト精子・卵子・受精卵を

取り扱う研究に関する見解」の改定案

倫理3：文部科学省の「特定胚の取り扱いに関する指針（案）」およびそれに対する本会倫理委員会の意見案

倫理4：「非配偶者間の体外受精に関する倫理委員会見解（案）」およびそれに対する本会会員からの意見のまとめ

倫理5：「平成12年度倫理委員会 登録・調査小委員会報告（平成11年分の体外受精・胚移植等の臨床実施実績および平成13

年3月における登録施設名）」

広報1：News Letter No.14

学会改革推進本部1：活動日程、資料提出依頼等

学会改革推進本部2：学会改革推進本部の設置と意見・提言募集について

学会改革推進本部3：主要学会・関連団体（会員1万人以上）の会費について

2006年AOCOG誘致準備委員会1：第1回会議議事録

2006年AOCOG誘致準備委員会2：予算（案）

・第2回常務理事会議事録の確認

議事録（案）が提示され、原案通り承認した。

・報告事項ならびに関連協議事項

1. 業務担当常務理事報告

1) 庶務（落合和徳理事）

〔 . 本会関係〕

(1) 会員の動向

名誉会員の逝去

福井靖典 名誉会員（東京）が7月3日に逝去されたので、会長名で香典、生花等を手配した。  
また、野澤志朗副会長が告別式に参列した。

功労会員の逝去

田村 武功労会員（東京）が7月17日に、高橋権三郎 功労会員（新潟）が7月19日に逝去されたので、生花、弔電を送付し、弔意を表わした。

(2) 定款の改定について

落合和徳理事より、「今回の定款の改定は、主に文言の整合を図ることを中心とした改定であり、定款上の〈目的及び事業〉のうち、学会認定医とあるのを産婦人科専門医に変更する必要のほか、文部科学省の指導を踏まえ、適正な表現に変更する箇所があるため、定款改定の手続きを進めたい。なお、細則、規則、内規等についての整合性を図るための手続きは幹事団を中心に見直しを進め、9月中までには作業を終えたい。」として、定款の改定案および事由書、定款新旧対比表に基づき報告された。

これに対し、佐藤和雄監事から「改定案のうち『構成員』を『現在数』と改定すると、出席者の現在数と誤解される恐れがあるのではないか。」との意見が出された。

本意見に対し、落合和徳理事から「出席者ベースの話でなく、現在在席実数である。」旨の説明があった。

以上の審議を経て、本件改定案を了承した。また、落合和徳理事から「今後のスケジュールとして、文部科学省との折衝を開始し、12月の第3回理事会で承認を求め、来年1月の機関誌で会員宛のお知らせを掲載し、会員の意見を聴取したうえで2月の第4回理事会に諮り、4月の総会で承認を求めたい。」との説明があり了承した。

(3) 本会ホームページによる議事録公開と議事録記載の変更について

落合和徳理事より「情報公開の立場から、なるべく早く、また発言者明記など審議過程がわかる形で議事録を作成し、会員用ホームページに掲載していきたい。」旨の提案が出された。

これに対し、中野仁雄副会長から「議事録のあり方はおおまかに、今までのようなサマライズされた形、発言者明記など詳しくするものの、ある程度サマライズするもの、行政的な速記録の形のものがあろうかと思うが、事務的負担の観点も考慮に入れたほうがよい。」との意見が出された。

これに対し、落合和徳理事から「私としては、中野副会長の言う 的な議事録を考えている。各理事がご自分の発言を要約、手直しする段取りは必要であると思う。実務的には庶務幹事を中心にやってみようという意欲もあるので、試行的に行ってみたい。」との意見が出された。

佐藤章理事から「どの会議でも対外的に匿名が望ましいというものはある。その辺の線引きを明確にしておく必要がある。また、各発言者においては、その発言が公開されるので、よく自分の責任でチェックして頂く必要がある。」

武谷雄二理事から「実現性、実効性の観点からも検討する必要がある。議事録をどこまで出すのか判断、また出した際の責任の所在はどこにあるのか。」との質問があり、これに対し、落合和徳理事から「幹事の負担は増えるが、担当常務理事の先生が担当分について責任を持って見て頂く必要がある。全体の整合については庶務にあるが、公開後の責任は会長にあると考える。」との説明があった。

佐藤和雄監事から「過去の議論については、時間の経過の中で最終的に頼るところは議事録しかない。その意味で詳しい議事録を望みたい。また併せて、録音テープを長期間保存しておくべきである。」との意見、提言が出され、審議の結果、議事の録音については実施し、テープは従来通り長期保存することとした。

武谷雄二理事から「行政的に一字一句書く議事録は現実的でない。サマライズした議事録とするにしても、どの程度サマライズされるのか。サマライズした結果、発言の真意が伝わらないものが議事録に載る懸念もある。」との意見が出された。

これに対し、落合和徳理事から「発言の主旨をよく踏まえた要約とするようにするが、基本は審議の過程がよくわかるようにすることである。」との説明があった。

青野敏博監事から「例えば3通りのバージョンの議事録のモデルを作り、検討したらどうか。」との提言があり、佐藤郁夫理事からも「その際、各モデルの議事録を作成するについての幹事、事務局の事務負担も加味すべきだ。」との意見が出された。

荒木勤会長から「負担のかかる作業と思うが、情報公開の見地から本件については是非実施したい。」との意見があった。

以上の審議を踏まえ、9月の第4回常務理事会において、従来型の議事録と、要約型ではあるが審議過程、発言者がわかる2通りの議事録を作成し、また、その際、それぞれの事務負担についても併せて考慮し、検討することになった。

#### 〔 . 官庁関係〕

##### (1) 卒後研修に関する要望書の提出について

6月1日の厚生労働省への要望書の提出に次いで、7月2日、荒木会長、澤庶務幹事が文部科学省を訪問し、高等教育局医学教育課長 村田豊司氏、同課長補佐 浅野敦行氏に面談し、卒後研修プログラムのコア・カリキュラムの中に産婦人科を含めるよう要望書を提出した。

##### (2) 東京高等裁判所からの鑑定人候補者の推薦依頼に対する対応について

東京高裁から依頼の事案については、現段階では、本会の鑑定人選定のシステムが確立されていないことから、日母を東京高裁に紹介することにした。日母からは、本件につき内諾を得ている。今後、運営企画委員会内小委員会である鑑定人候補選定委員会で本会におけるシステム作りを進めていくことで了承した。

荒木勤会長から「最高裁医事関係訴訟委員会に川名尚、木下勝之両会員が委員に加わっている。」旨報告された。また、佐藤和雄監事より「森巨日本医学会会長より、日本産科婦人科学会としても早急に鑑定人選定システムを確立して欲しいとの依頼があった。」旨報告された。

#### 〔 . 関連団体〕

##### (1) 日産婦・日母連絡会の開催について

8月6日、8月27日の2回、日産婦・日母連絡会の開催を予定している。

塚崎克己幹事長から、本会の議題は、卒後研修および出版、研修シールの単位制導入、鑑定人、正常分娩の現物給付、であることが報告された。

#### 〔 . その他〕

##### (1) 転載許諾

中山書店から、同社刊行「看護のための最新医学講座第24巻」に本会、日本病理学会、日本医学放射線学会共編の「子宮体癌取扱い規約」「子宮頸癌取扱い規約」から引用許諾申請があったので、他両学会の許諾を条件に応諾した(7月10日)

##### (2) 後援依頼

朝日新聞社が日本更年期医学会と共催での『「医と暮らし」健康大学 更年期を幸年間に』のシンポジウムを開催(平成13年9月29日)するに伴い、本会に後援依頼を求める書面を受領した(7月17日)財政的負担もないので応諾することを了承した。

#### 2) 会計(佐藤郁夫理事)

##### (1) 地方部会宛通知

本年度会費の納入期限は定款施行細則通り9月30日であり、その日までに本会事務局口座に入金する必要がある旨通知した(7月9日)

#### 3) 学術(藤井信吾理事)

##### (1) 第54回学術講演会一般演題の公募

機関誌第53巻8号に応募要項を掲載し、インターネットを利用したオンラインによる演題応募および郵送による演題応募を行う。応募期間は、インターネット利用の場合は8月1日~10月16日正午、郵便の場合は機関誌8号到着日~10月2日(当日消印有効)である。

##### (2) 第55回学術講演会特別講演演者推薦、シンポジウム担当希望者公募、第56回学術講演会シンポジ

## ウム課題公募

機関誌第53巻8号から公募の会告を掲載する。期限は11月30日である。特別講演演者推薦は理事、地方部会長、教授に別途推薦の依頼を行う。

### (3) 学術奨励賞に関する会告

具体的な推薦、応募方法に関する会告は機関誌第53巻10号から掲載する。なお、理事、地方部会長、教授、機関誌レフリーに別途推薦の依頼を行う。

### (4) 国外ISの演題募集

AOFOG加盟21国、個人（約740名）にCall for papers、ポスターを発送する準備を進めている。

### (5) 「朝日賞」候補者推薦依頼について

朝日新聞社から8月31日（金）までの推薦依頼があり、理事、学術企画委員に推薦を依頼した。

## 4) 編集（田中憲一理事）

### (1) 論文採用状況（カッコ内は受領数）

〔6月採用原稿〕

和文：原書2（5）速報0（0）診療4（9）

JOGR6月号：AJ5 NJ4（投稿受領AJ7 NJ3）

### (2) 会議開催

第1回編集担当理事会：6月22日に開催した。

機関誌抄録掲載号（第54巻2号）印刷原稿作成のための打合せ会：7月16日に開催した。

編集会議：7月23日、8月20日に開催する。

### (3) 厚生労働省医薬局からの通知

「医薬品の医療用具等安全情報」167および同ダイジェスト版を受領した（7月2日）

### (4) 学会・研究会等の案内掲載依頼（カッコ内は受信日）

第42回日本組織細胞化学会総会・学術集会、第6回日中合同組織細胞化学セミナー：平成13年12月6日～8日、東京都（6月25日）

“The Theory of Obstetric Medicine” Imperial College of Medicine主催：October 9-11, 2001, London（6月28日）

9th World Congress of Gynecological Endocrinology：December 2-5, 2001, Hong Kong（6月25日）

第17回日本糖尿病・妊娠学会：平成13年12月1日～2日、東京都（7月1日）

第10回クリニカル・ビデオフォーラム（C.V.F.）：平成14年2月2日、東京都（7月12日）

## 5) 渉外（村田雄二理事）

〔FIGO関係〕

(1) Sub-Saharan AfricaにおけるVaginal Fistulae問題にFIGOとしても積極的に関与すべきとの見地から、本会にも寄付等財政的支援を求める書状を受領した（6月29日）

静観することとした。

(2) “Unwanted Pregnancy and Unsafe Abortion” に関し、本会としての情報があれば、8月15日までに報告して欲しいとの書状を受領した（7月9日）

〔AOFOG関係〕

とくになし

〔ACOG関係〕

Electric MembershipへのJSOGからの加入について、ACOGのDr. Haleから契約内容についてのメールを受領した（7月6日）

村田雄二理事より「Dr. Haleからの回答において、\$5のElectric Membershipになるには、本会の専門医全てが加入するとの条件付であることが判明した。一部の者が入会し、その門戸を開けていくという本会の目算とは違った。Dr. Haleの言う通りの条件で加入すると\$50,000を超える支出となり、本会において大きな負担になる。」

中野仁雄副会長より「当初と話しが違ってきており、本会の財政的負担を伴うものであれば、従来通り希望者個々に入会する形でよいのではないか。」

武谷雄二理事から「全会員の加入を条件とし、本会が負担するのは筋違い。」

野澤志朗副会長から「本会はFIGOの構成メンバーであるので、米国のACOGのためにそこまで義理立てする必要はないのではないか。」との意見が出された。

佐藤章理事より「\$5の提示では断らざるを得ないが、正規のルートでのElectric Membership( \$ 150 )には加入を希望する会員も多いと考えられるので、広報で紹介したい。」との補足意見があった。

これら意見を受け、荒木勤会長から「本件としては、Electric Membershipへの対応を見合わせることにしたい。」との意見が述べられ、落合和徳理事からも「ACOGとの関係が本件の対応でまずくなることはない。」と述べられ、本会としては当面对応を見合わせることで了承した。

[その他]

「日中医学大会2002」(平成14年11月3日～6日、北京)の開催の案内を受領した(7月12日)

なお、期間中、産婦人科の分科会が開催されることが報告された。

## 6) 社保(西島正博理事)

### (1) 会議開催

第1回社会保険学術委員会を6月27日に開催した。

### (2) 薬品の第2回供給停止予定品目

日本医師会より、7月6日付リストの呈示があった。本会理事と社保委員に供給停止に応じてよいか問い合わせをしている。

### (3) 日本医師会の「医療構造改革構想」資料による現物給付について

西島正博理事より「日本医師会資料の最終頁の図表11に正常分娩が保険医療=現物給付に組み込まれていることにつき、日産婦、日母会長連名で遺憾の意と、正常妊娠・分娩は現金給付にすべしとの書状を日本医師会に提出したい。」との提案があった。

中野仁雄副会長から「これまで本件については日母がリーダーシップをとり、本会はどちらかというサポート的な立場をとってきた。本件書状については異存ないが、本件について本会としての立場をより明確にするための議論を行っていく必要がある。」との意見が出され、田中憲一理事からも「現在の分娩数の8割位で自費と保険診療の両方に請求しているかに聞いているが、それが事実なら現状のように現金給付を認め、その上給付金を上げるというのでは世間は納得しないのではないか。本会でも世間が納得するような議論が必要である。」との意見が出された。

これらの意見を踏まえ、荒木勤会長から「今後、日産婦独自の現物給付に関する議論を社会保険学術委員会を中心に深める必要がある。今回は、日母と連名の日本医師会宛書面を私と坂元正一会長とで日本医師会長の許に届けることにしたい。」とのまとめがあり、了承した。

### (4) エストラジオール貼付剤の「閉経後骨量減少症」に対する適応拡大に関する要望書について

西島正博理事から「水口弘司名誉会員からの要望を踏まえ、社会保険学術委員会で検討の結果、改善の効果が認められるので、要望書を厚生労働省に提出したい。因みに、骨粗鬆症学会等でも同様の要望書を提出済みである。」との提案があった。

本件につき、武谷雄二理事から「賛成であるが、今回何故エストラジオールに限った要望を出すのか。」との質問があり、青野敏博監事から「前社会保険学術委員長として経緯を説明すると、治験の結果、骨粗鬆症に加え、骨量減少症にも効果があったとの成績が得られたことから、エストラジオールの骨量減少症への適応拡大を求めるものである。他のホルモン剤の適応拡大については生殖・内分泌委員会で検討されているが、具体的に煮詰まっていない。」との説明があった。

これら意見を踏まえ、厚生労働省に要望書を提出することを了承した。

### (5) 超音波パルスドップラー法の社会保険の適応症について

西島正博理事から「本会の社会保険学術委員会および周産期委員会で検討した6疾患(子宮内発育遅延、妊娠中毒症、多胎妊娠、Ph不適合妊娠、羊水異常症、胎児仮死)のうち、胎児仮死を除く5疾患を適応と認めるとの日母からの回答があった。なお、適用の条件として、入院患者に限る、週1回、「疑」病名では不可、妊娠22週以降とする旨の回答があった。」旨の報告がされた。

### (6) 内保連の委員について

西島正博理事から「社保および学術に一任されていた内保連の本会の代表委員として、亀井清、谷昭博の両氏を選任した。」ことが報告された。

(7)(財)日本医療機能評価機構から病院機能評価事業における「診療機能調査票」改定に伴う調査協力者の依頼について

西島正博理事から「協力者として、社会保険学術委員である斎藤克、阪埜浩司、西井修の3氏を推薦する。ただし、同評価機構への入会はしない。」旨の報告があった。

## 7) 専門医制度 (武谷雄二理事)

### (1) 会議の開催

平成13年度認定審査面接試験共通問題作成委員会：7月6日に開催した。

### (2) 平成13年度専門医認定二次審査

東京会場(都市センター)と大阪会場(大阪科学技術センター)で、8月4日に筆記試験、5日に面接試験を実施する。

### (3) 地方委員会専門医認定一次審査通知書を送付した(6月30日)

また、一次審査合格者に対し、審査通知と二次審査受験票を送付した(6月30日)

## 8) 倫理委員会 (野澤志朗委員長)

### (1) 委員会開催

倫理委員会：第3回委員会を7月13日に開催した。

生殖医療部会 遺伝カウンセリング小委員会：第1回委員会を7月23日に開催した。第1回生殖・遺伝カウンセリング講習を8月25日に開催予定である。

登録・調査小委員会：第1回小委員会を7月24日に開催する。

倫理審議会：第1回倫理審議会を8月17日に開催する。

### (2) 本会の見解に基づく諸登録(現在審査中)

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：1施設審査中/登録77施設

体外受精・胚移植、およびGIFTの臨床実施に関する登録：9施設審査中/登録536施設

ヒト胚および卵の凍結保存と移植に関する登録：10施設審査中/357施設

パーコールを用いてのXY精子選別法の臨床実施に関する登録：機関誌46巻8号(平成6年8月)にて登録を一時中止以来登録なし、通算17施設

顕微授精の臨床実施に関する登録申請：5施設審査中/278施設

非配偶者間人工授精の臨床実施に関する登録：26施設

着床前診断に関する臨床研究施設登録：0施設

### (3) 後期精子細胞の臨床使用に関する本会会員よりの質問状に対する回答について

回答案につき野澤志朗委員長より説明があり、異議なく了承した。

### (4) 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課からの要請による、本会会告「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解」の改訂について

野澤志朗委員長から「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解について、生殖医療部会武谷雄二部会長を中心に改訂案および解説を取りまとめた。改訂の主旨は、受精卵をES細胞樹立のために使用できるとしたもののだが、国のガイドライン遵守を前提としつつも、本会の独自のルールを呈示した見解になっていると思う。」との説明があった。

武谷雄二理事からも同様に「本会として立場を明白にすべきとの見地から取りまとめたものである。」との補足説明があった。

落合和徳理事から「平成12年度第4回理事会および総会で大きな方向性につき承認を得ているが、会告として出すには次回理事会の承認とパブリックオピニオン聴取の必要がある。」

塚崎克己幹事長から「第4回理事会で方向性について承認を得たが、文言について承認を得たものでないので、ここで協議する必要がある。」との補足があった。

文言につき落合和徳理事から「会告の様式につき、荒木勤会会長名による新会告を前段にすべきこと、また、見解(案)解説中、学会としているのを本会と表記を改めるべき。」との指摘、さらに、荒木勤会会長他複数の理事から「会告文案中、文部科学省研究振興局ライフサイエンス課とあるが、具体的固有名称を

出さず、国とかの表現にしたほうがよい。」等の指摘があり、これらを踏まえて、会告改定(案)の一部修正を検討することになった。

野澤志朗委員長から「総合科学技術会議において、受精卵の使用に関し、根本的な見直し論が出ているようだが、進捗状況はいかがか。」との質問が藤本征一郎監事に出された。

藤本征一郎監事から「ES細胞の使用に関して、今後議論が進められる予定である。その中で、学会としてのきちんとした見解をタイミングを図って早めに出す必要がある。ただし、しっかりした手順を踏んだ上での学会の見解とすべき。」との回答、意見があった。

統一見解とするまでの手順につき、落合和徳理事から「12月まで理事会がないが、通信理事会で本件を協議することも一手法である。その場合でも統一見解(案)を機関誌を通じ3ヵ月さらす必要がある。」との解説があった。

佐藤和雄監事から「統一見解に至る経緯を明確に残して欲しい。」との意見が出された。

武谷雄二理事から「会告、見解等の学会の意見決定に際し、従来は機関誌に掲載し、会員からの意見を十分聴取した上で統一見解としていた。今回のように国との対応の中で早急な決断が必要な主要案件の採否に関しては、インターネット等の通信手段を含め、流動的な手段を考えていくべきである。」との意見が出された。

落合和徳理事から「会員に統一見解(案)を3ヵ月さらすのは絶対条件でなく、今回のように至急を要する件については常務理事会で1ヶ月と決めることも可能である。」との見解が示された。

以上の議論を経て、本件については、緊急性に鑑み、1ヶ月の意見聴取期間(理由を付す)を経て、次回理事会に上程することを了承した。

(5) 文部科学省の「特定胚の取り扱いに関する指針(案)」に対する意見募集について

野澤志朗委員長より「原案につき全理事に意見聴取を求めたところ、現在まで意見が寄せられていない。については、倫理委員会案を学会案として文部科学省に提出したい。」との提言があり、了承した。

(6) 「非配偶者間の体外受精に関する倫理委員会見解(案)」に対する本会会員からの意見について

野澤志朗委員長より「5人から意見が寄せられた。」旨報告された。

(7) 「平成12年度倫理委員会 登録・調査小委員会報告(平成11年分の体外受精・胚移植等の臨床実施成績および平成13年3月における登録施設名)」を機関誌53巻8号へ掲載することを了承した。

## 2. 理事会内委員会報告

### 1) 周産期に関する委員会(村田雄二委員長)

第1回周産期に関する委員会を7月23日に開催する。

### 2) 広報委員会(佐藤 章委員長)

#### (1) 会議開催

第2回広報委員会を8月2日に開催する。

第1回情報処理小委員会を8月2日に開催する。

#### (2) ホームページへの掲載

News Letter No.14を作成した。

ホームページ英語版を掲載した。

ホームページ上の検索システムPub Searchに山形地方部会データ、東京地方部会データを登載した。

各業務、各委員会活動内容につきホームページに掲載することを承認した。

### 3) 学会のあり方検討委員会・学会改革推進本部(中野仁雄委員長)

#### (1) 会議開催

7月16日に第2回学会改革推進本部会議を開催した。

8月27日に第1回学会のあり方検討委員会を開催する。

#### (2) 学会改革推進本部の活動について

中野仁雄本部長から「今年度2回の学会改革推進本部会議を開催した。この会議において、改革を推進する方向づけを確認、まずは直近の財政見直しを切口として、構造改革への取り組みを行い、中長期的な財政再建に結びつける、ディスクロージャーの観点から、学会のホームページを活用し、学会改革推進本部議事録の公開等や意見の聴取などを行う、経費削減の観点から、試行的に学会改革推進本部会

議をインターネット上のフォーラム（掲示板）で行いたい。今後これを理事会、常務理事会まで拡大することを視野に入れる。」ことが説明された。

さらに、「上記の直近の財政見直しとして、3~5%の予算削減を目安とする予算見直し計画を各部署に7月31日までに報告するよう依頼している。」旨報告があった。

(3) 会員用ホームページ、機関誌を通じ、学会改革推進本部設置と意見・提言募集のお知らせを行うことについて

中野仁雄本部長から「上記のディスクロージャーの観点から、本会の財務が今後逼迫する状況を資料3の内容で会員にお知らせしたい。ついては、本会議で承認されれば、早速会員用ホームページ、機関誌8月号に掲載したい。」との提言があった。

なお、本件に関し、武谷雄二理事から「賛成であるが、例えば生涯研修にどの位かかっているのかというような具体的な内容を提示しないと会員は意見を出しにくいのではないか。」との意見が出された。

中野仁雄本部長から「まずは、財務の概略を会員に周知する意味で、資料3のお知らせとしたい。各部署ごとのディスクロージャーについては、今後分析、善後策を踏まえた上で会員に呈示したい。」

これらの提言・意見を踏まえ、審議の結果、会員用ホームページ、機関誌に会員へのお知らせを掲載することを了承した。

(4) 通信常務理事会の活用について

中野仁雄本部長から「会議の効率化、経費削減の観点から、通信常務理事会を活用したい。」との提言があり、その方向性につき了承した。

4) 2006年AOCOG誘致準備委員会（中野仁雄委員長）

中野仁雄委員長から、7月5日の第1回の委員会を踏まえた誘致活動および予算概算について説明があり、その活動、予算概算について了承した。

#### ・協議事項

1. 第2回理事会の整理について

現在整理中である旨報告された。

2. 第54回総会ならびに学術講演会について

進捗状況の説明がなされた。

3. その他

(1) 常務理事会の時間延長について

塚崎克己幹事長から「幹事団から常務理事会の時間延長を提言したい。これまで15年間15:00~17:30までの開催だったが、これを14:30~17:30とし、30分延長したい。理由は、従来ややもすると時間的制約から議論が尻切れになった嫌がある。理事会内委員会の協議事項等が増えている現状に鑑み、時間延長をしたい。」との提言があった。

本件に関し、藤井信吾理事から「時間を長くすることだけがよいとは限らない。時間を遣り繰りして出てきている中で30分といえども前倒しは大変だ。」との意見、中野仁雄副会長からも同様趣旨の発言があり、審議の結果、開始時間変更、時間延長の提案は当面見送ることになった。

(以上)